

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000286		
法人名	株式会社あゆみ		
事業所名	あゆみ愛グループホーム		
所在地	姫路市網干区浜田95-1		
自己評価作成日	平成23年11月2日	評価結果市町村受理日	平成23年2月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成23年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様や、地域の方々が気軽に来て頂ける雰囲気作りを行い、緑や花が絶えない環境作りを行っている。ほぼ毎月ご家族様参加型の行事を施設にて開催しており、面会に来て頂ける機会を設けている。ご家族様をご利用様と一緒に食事をして頂ける体制を確保し、ご希望があれば宿泊にも対応する設備を整備している。ご利用様お一人お一人の生活の様子を写真付きで毎月お手紙にご家族様に郵送し、ご家族様と密な関係作りを出来るよう努めている。日常的に療育音楽療法や、回想法等を意識した余暇活動を取り入れ、ご利用様同士の会話が弾むようサポートしている。敷地内の畑や花壇を活用し、ご利用様に季節を感じて頂けるよう日常的に触れている。協力医療機関の医師、看護師とは密に連携を取っており、必要に応じて往診もして頂いている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつもニコニコ歩み合い」を理念に掲げ、職員全員で利用者と共に生活を支えている。地域ボランティアの援助を借りて地域行事に参加し、馴染みの関係が着実に構築されている。外出の機会を多く持ち、ホーム前で畑や花壇の花々を利用者と共に育て、洗濯物を銘々で干すなど、当たり前前の生活を支援している。利用者の笑顔と笑いがあふれ、手作りの食事支援や、医療連携、終末期の取り組みなど利用者にとって良いことは行っていこうと言う管理者の熱意と前向きな姿勢が伺える。地域に恵まれ、家族様を含め「人」に恵まれているとの管理者の言葉に今後のサービスの取り組みに期待が持てる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全GH職員で理念を考え、全従業員で選んだ「いつもニコニコ歩み合い」をGHの理念とした。その理念は出来たばかりではあるが、理念が出来るその前から全従業員と利用者の笑顔を意識して生活をしている。	管理者、職員全員で事業所独自の分かりやすい理念を作り上げ、日々のサービスの中で理念を意識しながら取り組まれている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域との関係性や地域生活の継続支援について理念を掘り下げた取り組みに期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(小学校の運動会、幼稚園の敬老会、祭り等)利用者従業員が積極的に参加し交流を図っている。また、地域のボランティアさんによる笑ヨガ、紙芝居、踊り、歌などを通して、地域の方々ともホーム内外での関わりを持っている。	公園の掃除や溝掃除など自治会活動に参加し、小学校の運動会や幼稚園の敬老会や秋祭り等に利用者と共に参加し、地域の人々と交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で認知症の事例について紹介したりして支援や理解を深めて行けるよう出席者と共に学ぶ機会を設けており、今後も随時行っていく予定。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、利用者家族代表、市役所職員、民生委員、地域包括の方々などに2カ月に1度来て頂き、それぞれの立場から見える意見を頂き、頂いた意見を次回の推進会議までに1つでも実行するように心掛けている。	利用者、家族代表、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員、グループホーム職員などで定期的に運営推進会議が行われ、いろいろな角度からの意見や課題を頂き、サービス向上に活かせるよう取り組まれている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月市役所には空床情報を送信し、運営推進会議には担当者の方へ出席して頂き、施設での取り組み等を伝えており、又アドバイスも頂いている。	毎月の報告や、運営推進会議に出席して頂き日常の運営状況を理解してもらい、分からないことなど相談したり、日頃から連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開き身体拘束に関する指針を話し合っている。身体拘束を行う場合に備えて、家族・利用者の承諾を得ようマニュアルの整備を行っている。	身体拘束マニュアルの整備が行われ、身体拘束委員会を発足し、身体拘束の内容やその弊害について職員間で学ぶ機会を持ち、玄関に鍵をかけないケアが行われている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	姫路市高齢者虐待防止マニュアルを職員がいつでも閲覧出来る場所に設置している。職員会議等を利用して勉強会も実施している。	姫路市高齢者虐待防止マニュアルを用いて、職員会議等で研修し、高齢者虐待防止関係法について理解を深め徹底防止に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護センターばあとなあとに所属し、職員も成年後見制度についての外部研修に参加しており、必要であればいつでも活用できる体制を整備している。	管理者、職員は外部研修に参加し、成年後見制度について学び、事業所内でも研修資料を回覧し学ぶ機会を持っている。現在必要となる利用者はおられないが今後に向けて取り組まれている。	自立支援事業や成年後見制度について家族・利用者にパンフレットなどを設置し紹介したり必要性について職員間で話し合うなど、具体的な活動が望まれる。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、又は申し込み、面接では、管理者・計画作成担当者を主体に重要事項の説明等十分な説明を行い理解・納得を得ている。質問しやすい雰囲気作りにも努めている。	契約時、解約、改定等には管理者が丁寧に説明し、細かい金額設定や、医療連携、終末期の対応など、利用者、家族の不安な部分や疑問について理解、納得して貰えるように努めている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者家族代表も参加して頂き、要望等聞かせて頂いている。また面会時等意見・要望を直接職員へ言って頂き、反映出来るよう心掛けている。ご意見箱を設置している。	意見箱設置し、運営推進会議での意見を運営に活かしている。日頃の関係作りを整え、言葉遣いの仕方であるとかいろいろ意見を直接言ってもらい、職員間で周知し、改善、反映している。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議を行い意見交換・議論し、職員の意見を反映させている。	月に1度の全体会議にはできる限り職員全員が出席し、業務の改善やサービスの質向上について意見を出し合い、提案を取り入れる体制があり運営に活かされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩所に賃金規定を設置し、いつでも誰でも見られるようになっている。勤務時間・人員配置の改善も各従業員との面接を交え改善に努めている。又、キャリアパス制度を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の内部研修の実施。外部研修の案内。研修内容を会社が判断し、研修日の休暇、参加費交通費等の補助等行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県外のグループホームと関わり、施設内見学、質疑応答等して頂いており、姫路市GH連絡会にも加入し、定期的な会議に出席し情報交換を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には本人様の自宅等で面接を行い本人様の希望を伺っている。アセスメントシート、介護計画に記入し職員全員が把握した状態でのサービス導入としている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前には本人様の自宅等で面接を行い、家族様から直接要望を伺っている。家族様に安心して頂けるように面接に伺った職員が入居当日受け入れを出来る体制をとっている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に、他の施設サービスや在宅サービスが適当と思われる場合は、連絡先をお伝えする等の情報提供を行っている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の特技や個性を活かし同じ作業をしたり、時間や行動を共にするように努めており、ご利用者様が能力の発揮をできるよう努めている。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状態を密にお伝えし、ご利用者様の思いをご家族に理解して頂けるよう努めている。又、ご家族様に支援方法の相談を行い、ご利用者様を支援している。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外に、ご友人・知人の面会も多くあり、地域の祭り、地元の病院、地元のスーパー等に出かけ、馴染の方と出会える機会を多く確保している。	利用者の友人や地域の馴染みの知人等が多く面会に来られ、継続的な交流が図られている。また外出時に行きつけの美容院やお店に行ったり等、ひとり一人の生活習慣を大切にしている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話を大切にし、お互いの関わりを大切にしよう支援している。現在ではAさんの部屋へ自然と数人が集まったり、散歩に行くときは声をかけあったり利用者同士もされている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所されている時に誠意をもって接しているので、退所後も家族から感謝の言葉を頂いたり、近くを通る際顔をだして頂いたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度本人と話し合い、満足頂けるよう努めており、その方の暮されてきた過去を十分把握するよう心がけアセスメントしている。	日々のサービスの関わりの中で職員が話しかけたり、利用者の呟きの中で、どう暮らしたいかとか誰に会いたいかその時々職員は把握している。	職員が把握した希望や意向を全体で共有し、再アセスメントとして様式にまとめたり、本人の意向が汲み出せる取り組みに期待したい。
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人様、家族様より過去の生活を伺い本人様の生活リズムに合わせた支援が出来るよう努めており、食事も個人に合わせたものを提供している。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のサービス提供記録をつけ、利用者一人一人の過ごし方、心身状態等把握するよう努めている。入居後の再アセスメントを行っている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の変更の際は本人様、家族様に直接お話を伺い、カンファレンスに参加して頂いている。又、主治医や、訪問看護師等から指示やアドバイスを頂いて実際の介護に反映している。	職員全体でカンファレンスを行い意見を出し合ったり、家族の希望や本人の意向を踏まえた介護計画を作成している。	モニタリング、サービスの評価を職員が意識を深め、利用者主体の暮らしを反映した介護計画作成、見直しの具体的な取り組み工夫が望まれる。
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の記録をつけ、週に一度のカンファレンス、毎日の朝礼を通して利用者の情報共有、気付いた事に対する対処を共有している。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に取り組めるよう努めているが、対応が遅れる事もある。またその反省を生かして、その話あいもしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共施設での詩吟、図書館の利用と主に趣味活動に力を入れ、気候が良い時は毎日公園へ散歩に出かけている。又、地域の行事の把握にも努めている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族と話し合いを持ち、本人・家族が希望するかかりつけ医との関係を築き医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の希望を確認しながら受診支援が行われている。必要に応じて受診の付き添いや複数の医療機関と連携し受診結果の情報を共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職・准看護師有資格者との連絡を取り情報や気づきを伝えている。相談し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院された際には定期的に病院へ訪問したり、ご家族様に連絡を取り状態の把握に努め、主治医、病棟看護師、医療ソーシャルワーカー等と十分に情報交換が出来るよう努めている。	入退院に際して、お見舞いや病院関係者と情報を交換し、退院に向けて支援している。急な搬送にも医療機関との連携が密にとれており、安心して治療ができるように関係作りを行っている	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者、訪問看護師、介護士、主治医、家族間で早い段階で話し合いを入念にし、施設内でできる事を十分に説明理解して頂きながら方針を共有している。	重度化や終末期に向けた方針が職員間で統一されており、訪問看護を利用したり、家族、主治医等で話し合いをしながら、希望に沿って支援している。事業所でできるケアや目的などを文章化し、同意を得て確認している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2ヶ月に1度心肺蘇生法やAED、アンビュー等の使用方法の訓練を行っており、急変時のマニュアルは常に受付に設置している。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1度防災訓練を行い、夜間を想定した避難訓練、災害発生時には同一敷地内のデイサービスに応援を依頼する訓練も行っている。	2ヶ月毎に防災訓練を重ね、家族にも参加して頂いて、避難訓練にかかる時間の短縮を図っている。	地震、水害、火災以外の災害についても日頃より、地域住民や消防所との協力体制を図りながら具体的な避難誘導策の検討が望まれる。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人としてのご利用者様を尊重し、権利擁護の視点を持った接遇を行っており、新規採用時研修時には必ず確認している。	利用者の誇りやプライバシー確保、人格を尊重することを新人採用時に研修している。人前で本人を傷つけてしまう言葉かけや対応にはその都度注意し、改めてもらうようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に耳を傾け自己決定できるよう働きかけている。現状全職員が出来ているわけではなく、出来ていない職員に対しては注意するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	援助する側の都合に合わせないよう一人一人のペース希望にそって支援するように心がけているが、利用者の体調にあわせてこちらが判断する事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、化粧の手伝いをしたりしている。また、同じ服を繰り返さないことや、季節に応じた身だしなみをしている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物も一緒に行き、準備、食事、後片付けも一緒にするようしている。職員によってはできていない時もある。また、利用者アンケートをとり食事の意見も取り入れている。	利用者と一緒にその日の食材や、買い物に出かけて献立を決めている。調理の仕方や味付けなど、利用者が主体となって行われている。準備から後片付けなど役割や力を発揮できる場面作りが行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を記録している。個々の咀嚼能力や嚥下能力、食事習慣をアセスメントにて把握し、状況に応じた食事形態で提供できるよう対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介護計画にも口腔ケアサービスを明記し、毎食後に口腔ケアを実施し、義歯洗浄も行っており、夜間には義歯消毒を行っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	家族とも話し合いパットの使用を控えたり、トイレ誘導を増やしたり、トイレでの排泄にむけた支援をしている。個々の排泄を記録し、状態に合わせた支援が行えるよう再プランニングしている。	夜間のトイレ誘導を増やし、おしめからパットへ変更したり、定時の排泄介助を行い、尿意や便意のない方、おしめ使用している人もトイレでの排泄を促し、自立に向けた排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を摂取したり、散歩などの運動を取り入れ予防に取り組んでおり、排泄状態を主治医に相談し必要であれば内服薬の指示を頂き排便コントロールを行っている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状、時間帯や曜日を決めて行っているが、本人様が希望されれば入浴して頂ける体制をとっている。	基本、二日に一回は入浴して頂くように支援している。ひとり一人の習慣に合わせてゆったりと、入っていただけるように努めている。ゆず湯や入浴剤を使って楽しめる工夫がなされている。希望があればいつでも入浴できるように柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを作り昼夜逆転などにつながらないように支援している。また体調に応じても支援するよう心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は准看護師資格保持者が行い、副作用、用法は理解している。内服薬の使用方法は個人のファイルに綴っている。新しい内服が追加された場合は申し送りノートに記載し、副作用等の出現に気を配るよう配慮し、記録している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事委員を設置し、行事を行ったり、日頃も屋内屋外関わらずレクを実施している。買い物も一緒に行き、本人様の好きな物を購入していただいたりしている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画をたて、普段行けない所にも外出して楽しんで頂いている。地域のイベントに参加する際にはボランティアさんに協力してもらったりしている。	地域のイベントにはボランティアの協力を得て、音楽会、運動会、網干フェスティバル等に参加している。日常的には散歩コースとして公園やローソンに出かけたり、季節ごとの外出や喫茶など、外出する機会を積極的に支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の必要な物、欲しい物は買い物に行き、本人が購入する支援をしている。現金をご自分で所持する事を禁じたりしていない。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話、手紙のやり取りが出来るよう支援しており、携帯電話を所持しておられる方もおられる。公衆電話は自由に使用できるようにしている。家族が海外にいる場合は、データ化してメールにて送っている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を清潔に保ち、季節の花などを飾るなど工夫している。リビングには乾湿計を設置し、適正な湿度と温度を確保するよう努めている。	居間と居室の間に掘り込みこたつを囲んで畳の間があり落ち着ける空間がある。季節の花があちこちに飾られ季節感を採り入れている。環境整備が整っており広い窓から明るい日差しがそそぎ、空気清浄機を設置し、居心地良く過ごせる取り組みがなされている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者同士話をしたり、個人の居室でも仲の良い人はお互いの部屋を歩き来している。自由に和室を使用できるようにしており、ベンチも設置している。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・物品等家で使われていたものなど持ち込んで頂き、写真などで自由に飾り付けをして頂いている。	利用者の個性に合わせた家具やベット、写真や飾りもの等、自由に好みの物を活かせるよう配慮されている。扉にはその人その人の好みに合った手作りの表札があり、居場所づくりの工夫がなされている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理・清掃・洗濯等家事全般を利用者に応じて支援を変えて職員と一緒に出来ている。		